

## 装いあらたに

—農のクオリティペーパーを目指して—

「調査と情報」は当社の前身である旧農林中金研究センター時代から脈々と発行されてきた、農林漁業や協同組合等に関する研究情報誌であります。通算すれば、これまで25年以上に亘り300号を超える発行を行ってまいりました。本誌は当社における刊行物の中で「農林金融」「金融市場」と並ぶ月刊誌であり、自讃になりますが「継続は力なり」で長年に亘りまして農林漁業者、協同組合人、研究者の皆様それぞれに評価を賜り、読まれてきたものと考えております。

私どもは本誌を引き続き当社の重要な研究情報誌と位置付けて発行を継続する所存ですが、このたび今日的観点からの全面的見直しを行い新装発刊させていただきました。

本誌はこれまで「小粒でピリッとした」冊子として簡素、平易、スピードを旨として発行してまいりましたが、ページ数が少ないこともあって、研究成果発表誌としては十分な内容を盛り込むことができないこともあり、また発行体裁もより今日的にとの声も出てまいりました。

そこで、先ず発行主体がこれまで当社の1部門である基礎研究部であったのを今回から農林中金総合研究所として編集・発行いたします。また農林漁業、協同組合に関するより内容の充実した研究成果の報告の場とするため、ページ数を増やし、隔月刊とさせていただきます。体裁もA4版横書きに改め一段の読み易さに努めます。

さらに当総合研究所の業務計画や全体的な運営の動き等の状況も逐次ご報告するとともに今回から「研究の視点」を新設し、各研究員が現在取り組んでいる研究課題や問題意識を述べる欄といたしました。

私ども総合研究所はJAバンク全体のシンクタンクとして、農林漁業、系統組織の発展と系統信用事業の円滑な運営に資する幅広い調査研究と情報提供を行うことを基本的使命と認識しております。従って調査研究テーマは経済金融、農林漁業、協同組合、系統信用事業等に関して極めて多岐に亘り、各研究員も常々担当分野に応じた幅広い課題と問題意識を有しております。基礎的研究部門だけを見ても農業構造の変化や農政改革、WTO交渉を踏まえた諸課題と展望のほか米政策転換の影響、地域農業と担い手問題、環境保全と農林漁業、食の安全性、食品産業と農林漁業の連携、農協の営農指導事業、経済事業の分析、農協と地域社会、食農教育、女性組織の活性化そして中国、アセアンを含む海外農林漁業情勢等々多くのテーマを有しております。

しかし限られた要員と資源の研究所でありますから、今後とも「少数精鋭」をモットーとして基礎的テーマや今日的テーマにつき、今何が重要なのか何が求められているのかを自問しつつ、適切な課題選択を行い対応していくことが肝要であると考えております。

当総合研究所の研究活動や本誌の発行につきましても、引き続き読者の皆様や各位のご意見を十分いただきながら充実に努める所存ですので、今後ともよろしくご指導、ご支援のほどお願い申し上げます。

（農林中金総合研究所 代表取締役社長 栗林直幸）